

平成24年10月18日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成24年度 第2回 地域経済活性化部会

◆ 10月18日(木)、美しい多摩川フォーラムの平成24年 第2回 地域経済活性化部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成24年10月18日(木) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 2F キャンティ
- ・出席者：会長(部会長)、運営委員、顧問、アドバイザー、会員等

◎ 地域経済活性化部会の概要

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 経過報告 ※はビデオ放映

- (1) 第1回・美しい多摩川フォーラムの森(青梅)の下刈りイベント開催(6/30) ※
【資料1】
- (2) 多摩川っ子(第5号)発刊(7/9) 【資料2】
- (3) 「食と地域の交流促進対策事業」～第2回・食と文化の交流イベント開催(7/7) ※
【資料3】
- (4) 第2回・狛江古代カップ・多摩川いかだレース参加(7/15) ※ 【資料4】
- (5) 多摩川“水”大学講座(7/20、9/21) 【資料5】
- (6) 第5回・子どもカヤック体験教室開催(7/21) ※ 【資料6】
- (7) 東急百貨店より第3回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈(7/24) 【資料7】
- (8) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成24年度総会開催(7/25) 【資料8】
- (9) 多摩川1万人の清掃大会参加(8/7) 【資料9】
- (10) 第4回・炭焼き体験と水辺の交流会開催(8/17) ※ 【資料10】
- (11) 「食と地域の交流促進対策事業」～第2回・実行委員会開催(9/10) 【資料3】
- (12) 「食と地域の交流促進対策事業」～大人のためのカヤック体験教室開催(9/17) 【資料3】
- (13) 第5回・美しい多摩川フォトコンテストの募集開始(10/1～12/31) 【資料11】
- (14) 第5回・たまりバー50キロ命名記念・RUN&WALK開催(10/13) 【資料12】
～以下、当面の予定～
- (15) 多摩川“水”大学講座(10/19、11/16) 【資料5】

(16) 第4回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催 (11月) 【資料13】

(17) 第5回・多摩川子ども環境シンポジウム開催 (12/8) 【資料14】

4. 意見交換

(1) 夢の桜街道運動 (多摩川&東北) について 【資料8】

(2) グリーン・ツーリズムの促進について 【資料3】

(3) 講師派遣・人材バンク制度の新設について 【資料15】

(4) その他

5. 部会長総括・閉会

1. 開会 (初参加者紹介および資料確認)

(事務局)

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成24年度第2回地域経済活性化部会を始めさせていただきます。本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

(公益財団法人 東京都農林水産振興財団 花粉の少ない森づくり担当

課長 金子 悦子 様)

金子と申します。花粉の少ない森づくりにおいて、色々な運動に取り組んでおります。募金活動や「企業の森」、あるいは「森づくり支援倶楽部」の活動をやっております。皆さまのお力を借りてPRを進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

(大田区 都市基盤整備部 都市基盤管理課 計画調整担当係長 渡部 正美 様)

渡部と申します。多摩川に関しましては、皆さまのご協力をいただきながら、色々な活動をさせていただいております。特に河口部ということで、高潮対策、災害時の管理道路等、国土交通省さんや京浜河川事務所さんと連携を取りながら整備を進めております。本日の【資料2】にありますように、鶴ノ木地区において、水辺の楽校を立ち上げるべく準備をしております。8月19日にイベントを行いました。これからも、多摩川を中心に、皆さまと協力しながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(羽村市 産業環境部 産業課 商工観光係 主事 葛西 志耕 様)

葛西と申します。美しい多摩川フォーラムの活動では、「多摩川夢の桜街道」で羽村市の桜の名所を札所に選定していただいているのと、11月の美しい多摩川クリーン

キャンペーン、4月の「駅からハイキング」くらいしか今のところご協力できておりません。羽村市は玉川上水の起点でもありますので、今後はもう少し河原や水辺を利用した観光資源の発掘を行っていきたいと考えています。先日、大田区さんで開催された「ウォーキング・フェスタ」にも羽村市として出店させていただきましたが、なかなか上手くPRできないと感じました。今後も色々と協力をさせていただき、進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(日本フィルター工業株式会社 羽村工場 課長 中村 孝 様)

JTグループの日本フィルターから参りました中村と申します。JTでも全国各地でクリーンキャンペーン等を行っております。その一部として、日本フィルター羽村工場としましても、昨年「美しい多摩川クリーンキャンペーン」に参加させていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(野村 有信 様)

皆さんこんにちは。私は青梅市出身で、フォーラム発足当初から顧問をしておりますが、今まではあまり部会には出席しておりませんでした。2年ぶりに出席させていただいております。実は私は、3年前まで青梅市出身の都議会議員でしたが、現在は東京都議会自由民主党の特別顧問を仰せつかっています。議会にいる当時は、森林・林業・木材産業活性化議員連盟の会長を仰せつかりました。また花粉症対策では、花粉症対策の議員連盟を設立し、青梅という地理的な環境から、当然ながら森林、多摩川に携わってまいりました。東京都は、新たな多摩のビジョンを年内に策定中です。ぜひ貴重なご意見を賜り、都政の上でも反映したいという想いで、本日出席をいたしました。よろしくお願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。それでは、細野会長からご挨拶をお願いいたします。

2. 部会長挨拶

(細野会長)

平成24年度・第2回地域経済活性化部会を始めます。式次第の通り、経過報告も沢山ありますし、新たな事業の提案もありますので、早速始めたいと思います。

それでは、事務局より経過報告をお願いします。

3. 経過報告

(事務局)

はい、今年度の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料にて時系列でお

示しております。それでは、はじめに（１）番、（３）番、（４番）、（６番）、（１０）番をビデオにまとめておりますので、後方のスクリーンをご覧ください。

— ビデオ放映 —

経過報告を続けます。

**（３）「食と地域の交流促進対策事業」～第２回・食と文化の交流イベント開催（７/７）※
【資料３】**

- ・ 【資料３】をご覧ください。平成２４年７月７日（土）、宮城県加美郡加美町にある農家民宿「おりぎの森」において、「第２回食と文化の交流イベント」が開催されました。これは、農林水産省関東農政局の「平成２４年度 食と地域の交流促進対策交付金」による事業で、多摩地域に古くからある“食”や“文化”を見直し、今後の交流促進に活かそうという試みであり、今回はその第２回目として、観光と連携した都市農山村の交流（グリーン・ツーリズム）を促進するため、当フォーラム副会長で語り部の平野啓子さんによる朗読と「語り」のイベントを開催しました。

（５）多摩川“水”大学講座（７/２０、９/２１）【資料５】

- ・ 【資料５】をご覧ください。これは、今年度の新規事業で、調布市との共催のもと、５月１８日に開講し、順調に進んでおります。講師には、小倉副会長をお迎えし、講座を通じて「水環境のリーダー」の養成を目指します。

（７）東急百貨店より第３回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈（７/２４）【資料７】

- ・ 【資料７】をご覧ください。平成２４年７月２４日（火）、株式会社東急百貨店本社にて、今年度も、東急百貨店のココエコチャリティー・イベントによる売上金の一部２７５，８３４円が、当フォーラムに寄付金として贈呈されましたので、ご報告致します。

（８）「東北・夢の桜街道推進協議会」平成２４年度総会開催（７/２５）【資料８】

- ・ 【資料８】をご覧ください。平成２４年７月２５日、平成２４年度総会が開催され、当フォーラムより同協議会への拠出金について、平成２４年度１，７００，０００円が承認されました。後ほど、意見交換（１）でご説明させていただきます。

（１１）「食と地域の交流促進対策事業」～第２回・実行委員会開催（９/１０）【資料３】

（１２）「食と地域の交流促進対策事業」～大人のためのカヤック体験教室開催（９/１７）【資料３】

- ・ （１１）、（１２）については、意見交換の（２）において、ご説明させていただきます。

(14) 第5回・たまりパー50キロ命名記念・RUN&WALK開催 (10/13)

【資料12】

- ・ 【資料12】をご覧ください。これは、昨年の寄付金贈呈の模様です。先般10月13日に、第5回が開催され、大田区丸子橋付近のスタート地点には、今年も早朝より大田区議会議員ほか、区民有志の中には、今回初めて地元中学生の参加もあり、事務局も合わせて約50名が集まり、最終ゴールの羽村市を目指して出発しました。なお、集められた募金は、後日大田区長室において、寄付金として贈呈される予定です。

(16) 第4回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催 (11月) 【資料13】

- ・ 【資料13】をご覧ください。これは昨年の第3回美しい多摩川クリーンキャンペーンのチラシです。第1回目は5団体、第2回目は10団体、昨年は15団体が連携団体として名を連ね、今年度は行政の立川市をはじめ、民間企業などが新たに参加する予定で、最終調整中です。

(17) 第5回・多摩川子ども環境シンポジウム開催 (12/8) 【資料14】

- ・ 【資料14】をご覧ください。今年も12月8日(土)に昭島市のフォレストイン昭和館で開催いたします。例年10組程度の個人・グループが発表を行いますが、現在は5組が正式に決まっており、2組が調整中です。11月15日の応募締め切りまでまだ日数がありますので、関心のある方にお声掛けをお願いいたします。

経過報告は以上です。細野会長、よろしくお願ひします。

(細野会長)

事務局からの経過報告で何かご質問等はございますか。ないようでしたら、意見交換に進めます。

4. 意見交換 (部会長)

(細野会長)

はじめに事務局の方から説明してください。

(1) 夢の桜街道運動 (多摩川&東北) について 【資料8】

(事務局)

- ・ 事務局の宮坂です。本日は、初めて参加される方もいらっしゃいますので、過去の話から進めたいと思います。そもそもは東日本大震災で、地域づくり団体である多摩川フォーラムとして、何かできることはないかと検討を始めました。

たまたま、美しい多摩川フォーラムの中でシンボルプランとなっている「多摩川夢の桜街道」のスキームが、東北に当てはまるのではないかとということで、さらに検討を進めてました。当初は、我々の姉妹団体である「美しい山形・最上川フォーラム」に声を掛け、両団体合同でこのプランを立ち上げ、昨年の10月1日に对外発表をいたしました。このプランの中身に好評をいただき、関心を持っていただいた国土交通省から、「地域づくりに補正予算を考えているので、応募してみてください」とお話をいただき、応募したところ、920万円の補正予算をいただきました。これを機に組織変更を行い、12月1日に「東北・夢の桜街道推進協議会」を立ち上げました。多摩川フォーラムとしては、この協議会に170万円を拠出することを決めました。その動きを受け、今年の春には諸処の活動を行い、大成功に終わりました。

- ・ 来年春に向け、7月25日には協議会の平成24年度総会を仙台で開催しました。【資料8】にありますように、行政構成員として東北6県と東京都、民間構成員としてJR東日本、全日空、日本航空、はとバス、JT B、クラブツーリズム、近畿日本ツーリストが参加しております。また、我々事務局が青梅信用金庫であるため、信金業界との連携を考え、東京都信用金庫協会、東北地区信用金庫協会、全国信用金庫協会が加わりました。さらに、最上川フォーラムと多摩川フォーラムも地域づくり団体を代表して入っています。また、特別委員という形で、国土交通省東北地方整備局、東北運輸局が国として参加しています。半官半民の東北観光推進機構も参加しています。会長は細野会長です。
- ・ 次ページをご覧ください。平成23年度は第3次補正予算をいただきましたが、平成24年度はどうしようかという中で、国土交通省国土政策局から、「平成24年度は全国ベースで官民連携主体による地域づくりの推進事業を公募する」と案内があり、立候補したところ、全国9件の応募の中から、我々協議会を含めた5件が採択されました。先ほど申し上げた東北観光推進機構は、東北の観光を進めているところですが、その応募事業が落選し、我々の案件が通ってしまいました。そのため、我々の取り組みも責任が重大になってまいりました。
- ・ では、今後どういう事業をしていくのかということで、次ページをご覧ください。「東北・夢の桜街道」の中心的な事業は、「美しき桜心の物語の語り会」です。先ほどの映像にもありましたが、今年の春は平野啓子副会長が三春の滝桜で語りの講演をされました。来年春は、宮城県の鹽竈神社に場所を移して語り会を行います。また、交通機関や旅行会社では、桜街道をPRしていきます。特にJR東日本では、「View」商品の中でPRをしていきます。旅行会社でも、交通機関と連携してPRを進めていきます。信金業界では、「しんきん桜守制度」を現地で導入することを考えています。東北地区には27信金がありま

すので、地元でも我々の応援に呼応する形で、札所の桜をシンボルにしながら、お子さんたちの絵画展や作文コンクール等、それぞれの地域に合ったプランを考えてもらい、地域づくりに貢献してもらおうと考えています。

- 先ほど、国交省から平成24年度の予算が付いたと申し上げましたが、その具体的な事業は大きく4つに分かれます。①東北復興支援シンポジウム（支援する側、支援される側が集まり、東京虎ノ門にある「イイノホール」で平成25年1月20日に開催予定）、②東北観光物産展&夢の桜街道パネル展（平成23年度もパネル展を開催済。平成24年度はさらに東北の観光物産展をプラスアルファする。新宿駅西口広場イベントコーナーにて平成25年2月24～25日に開催予定）、③しんきん桜守事業（桜の札所の看板設置、記念スタンプ等の配置）、④後援信用金庫全店&連携先でのポスター掲示（本支店全店に1月から5月初めまで掲示）。現在回覧しているのは、来年春のポスターです。今年の春は、東北6県の知事の顔を掲載していましたが、来年の春は各県のゆるキャラに登場してもらい、さらに親しみをこめてアピールする予定です。そして、美しい多摩川フォーラム単独としては、ダニエル・カールさんが「多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り」を、主に下流域において実施する予定です。
- 次ページには、「東北・夢の桜街道運動」の中身を総括した文章が書かれていますので、後ほどお読みいただければと思います。

（細野会長）

ただいまの説明について、何かご意見・ご質問はございますか。事務局のほうからご指名はありませんか。

（事務局）

毎年春に多摩川フォーラムとの連携で札所巡りのウォーキング等をさせていただいている、サンケイリビングの石河編集長、一言お願いいたします。

（石河様）

突然のご指名でしたので、考えをまとめていないのですが、この事業の詳細については、前回までにご説明いただいていたのでよく理解しておりますが、どうしても私たちが気になるのはPRです。とても良い活動だと思いますし、もっともっと皆さんにPRしていきたいので、そこをどうお考えなのかお聞かせください。

（事務局）

確かに、PRは難しいです。というのは、全国を相手にしている関係で、チラシを各所に配ろうとしても、大変で膨大な金額がかかります。多摩川フォーラムからは、

170万円という大変高額な拠出金をいただいておりますが、この金額だけでは足りません。そのため、東北6県や東京都に入っただいたり、あるいはJRや航空会社、バス会社、旅行会社と連携したりして、それらの商品の中に落とし込むことでPRをしていきたいと考えています。もちろん信金業界での店頭でのポスター掲示は今年も考えています。桜の札所マップもからませながら、企業連携でPRをしていきたいと考えています。

(細野会長)

有り難うございました。その他ありましたらどうぞ。

(事務局)

またご指名という形で恐縮ですが、例年「駅からハイキング」というイベントで羽村市から札所巡りを開催している関係で、羽村市の葛西さんに、「駅からハイキング」の感想も含めて、一言お願いいたします。

(葛西様)

「駅からハイキング」については、私が異動してきた関係で、まだしっかりと経験できていないのですが、我々としては、「駅からハイキング」を行っている所と連携して、地域の産業振興を行っていききたいと思います。今日、経過報告を聞いた中で、例えば狛江市さんのいかだレースだとか、カヤック体験教室だとか、弁当開発等で、産業振興を自治体と一緒にやっているという事例があれば教えていただきたいです。

(事務局)

青梅や奥多摩では連携してやっております。今後、そういったものを広げてネットワークの輪を広げていければと思います。

お時間の関係もございますので、お隣の席の吉丸園長、ご意見がありましたらよろしくをお願いいたします。

(吉丸様)

個人で東北に行かれる方に、色々な形でPRできるように考えられているということですね。

(事務局)

有り難うございます。もうひとつ、ご指名させていただきます。JR東日本の酒井様、ご意見がございましたらよろしくをお願いいたします。

(酒井様)

前任の小関から引き継がせていただき、参加しております。「東北・夢の桜街道」立ち上げの際には、小関が関わっておりました。東北の桜は、管轄であるJR東日本も目玉商品として力を入れており、毎年春になると、B全ポスターで東北の桜を紹介しています。今回、多摩発信で東北の桜八十八ヵ所を宣伝出来るのは、有り難いことだと思います。現在、「東北・夢の桜街道」の窓口が八王子支社から本社に移りましたので、本社と連携して協力していきたいと思っております。八王子支社としては、「駅からハイキング」を通して、まずは多摩の桜を宣伝していきたいと思っております。

(事務局)

交流人口を増やして地域の活性化を目指す「多摩川夢の桜街道」の成功例としてひとつご紹介したいのですが、はとバス観光事業部の江沢課長さんが本日欠席のため、メッセージをいただいております。本日お配りした折りたたみ式のマップを開いて七十五番札所の龍朱院をご覧くださいなのですが、ここは「多摩川夢の桜街道」を発表するまでは、さして有名などころではありませんでした。しかし、ここが素晴らしいと札所巡りに加えさせていただいたところ、今では大変人気のスポットになり、カメラを持って訪れる方が多くなったそうです。去年の春、はとバスさんがここを巡るツアーを始めたところ、大好評で、今年の春もバスが何十台も訪れたそうです。今年は春だけでなく、11月10日～12月16日までの土日もバス20台で龍朱院を訪れるそうです。以上、ご紹介でした。細野会長、よろしくお願いたします。

(細野会長)

では、(2)に移ります。事務局から説明してください。

(2) グリーン・ツーリズムの促進について【資料3】

(事務局)

- ・ 【資料3】をご覧ください。

7月7日(土) 「第2回食と文化の交流イベント」を開催

(アンケート集計結果を添付)

9月10日(月) 「食と地域の交流促進対策事業」第2回実行委員会開催

(議事メモを添付)

9月17日(月) 「大人のためのカヤック体験教室」を開催

(アンケート集計結果を添付)

最後のページは8月23日付の読売新聞の記事で、多摩川フォーラムが奥多摩郷土弁当を開発し、グリーン・ツーリズムの一環で観光ビジネスの創出につなげる狙いがあることが紹介されています。文中には「文化」についてのコメントも掲

載されています。

- 初めての試みである「大人のためのカヤック体験教室」については、事務局の心配をよそに大変好評で、受付1日目で定員に達し、その後もキャンセル待ちが相次ぐほどの人気イベントになりました。参加者は男女問わず、40代～60代の方が中心で、おひとりで参加される方も多くいらっしゃいました。このイベントの昼食には、現在開発中の奥多摩郷土弁当と桜スイーツ（この日は東洋米菓さんのみ）を試食いただき、アンケートを取りました。桜スイーツについては、府中の青木屋さんでも開発中で、来年1月29日の完成発表会では2つのスイーツが発表されます。
- 大変好評だった「大人のためのカヤック体験教室」は、今回は青梅市さんとの共催で開催しましたが、来年度以降も定例事業化し、都市部の人たちにカヌーを体験してもらい、奥多摩の食材を使った弁当やスイーツを味わってもらうため、例えばJR東日本さんと連携してPRできないかと、酒井さんには口頭ベースでお話をさせていただきました。
- このグリーン・ツーリズムの推進について、皆様からご意見やご質問をいただきたく、お願いいたします。このプロジェクトの「食」について、影の実行委員長としてご活躍いただいている、澤田アドバイザーに一言お願いします。

(澤田様)

このプロジェクトの「食」に関しては、素人の発想でやっていけないと思います。奥多摩では既に「奥多摩弁当」を販売している業者さんがいます。そういった業者さんを含め、普通、弁当の味付けは砂糖や醤油が基本だと思いますが、今回はそれらを一切使わず、「米麴（塩麴）」使った味付けを行いました。アンケート集計結果を読むと、弁当箱に関して厳しい意見をいただいています。我々は河童橋まで行って、土に還るエコの弁当を購入しました。1箱65円です。コンビニ等で使用されている箱は1箱20円です。エコの弁当を使用していることをどうPRしていくかがポイントだと思います。他にも作り手などの問題、弁当の量等、解決すべき問題はいくつが残っていますが、我々は「エコである」「全てにおいて多摩の食材を使う」「醤油・砂糖から脱皮する」ことをコンセプトにしていますので、これからも頑張ってやっていきたいと思っています。

(事務局)

有り難うございました。今後の方向性ということで、JR東日本の酒井さんに一言お願いします。

(酒井様)

まだ社内的に議論していませんが、私が個人的に可能性として考えられることをお話しします。先ほど、「大人のためのカヤック体験教室」に参加された方の年齢を聞いて、弊社では「大人の休日倶楽部」という、50代以上の方をターゲットにした会員組織がありますが、その中で「趣味の会」があり、そこにPRすることで、誘客効果があるのかなと思いました。また、駅を利用した宣伝展開もあります。一緒に宣伝物を作り、駅に掲示することで、都内の方に来ていただけるのかなと思います。ただ、旅行業法も厳しくなっており、宣伝物を作成するにあたってお客様に対する危険負担をどのようにやられているのかを調査する必要があり、また、広く宣伝するには、開催回数も増やしていただく必要があるかなと思います。

(細野会長)

有り難うございました。他にご意見等ございますか。ないようでしたら、次に進めます。事務局から説明してください。

(3) 講師派遣・人材バンク制度の新設について【資料15】

(事務局)

- ・ 【資料15】をご覧ください。これは、前回の活動部会で山崎運営委員から提案があり、事務局としてあくまでもタタキ台を作成してみました。多摩川フォーラムには、運営委員や一般会員の中で、かなり専門性を有する、日本を代表するような知識をお持ちの方が多数いらっしゃいます。これまでも、あきる野市の増戸中学校から過去2年間、「環境学習をしたい」と、外部講師の派遣の相談を受け、事務局のほうで対応したことがあります。今後、こういう事例が増えてくると、人材バンクを制度化できないかということで、スキームを作りました。
- ・ ネックになると予想されるのは、報酬です。ボランティアで受けるにしても、交通費や謝金はいただいたほうが良いのではないかと、最低限の取り決めをしたほうが良いのではないかと、皆さんのご意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(細野会長)

まず、そもそも論があると思います。人材バンクを作ることはとても良いことだと思いますが、それによって何を指すのかが大事だと思います。責任も関わってきます。人材バンク作りには個人情報も入ってきますし、その管理をどうするのかなど、色々なことがあります。人材バンク案について、皆さまからご意見をいただきたいと思っています。事務局から指名していただけますか。

(事務局)

実際に講師派遣を受けたとイメージして、馬淵さん、どうでしょうか。

(馬淵様)

うちの財団では、グループを含めて色々な講師の相談が来ます。そういった際には、お付き合いがあって信用のある方を紹介しています。後の話は当人同士で決めていただいています。こういったことをどこかがきちっと取りまとめることは、良いことだと思います。

(事務局)

有り難うございました。キャリアマムの堤さんも色々なところで講師をされる機会があると思いますが、この制度に対するご意見をお願いします。

(堤様)

講師を頼む側としては、しっかりした機関にお願いできて、講師の選択肢に幅があるという面で、メリットがあると思います。ただ、事務局側で、誰を講師にすべきかのコーディネーションをしなければならないこと、個人情報の取り扱い、また、1回目は人材バンクを利用して、2回目以降の手数料はどうするのか、講師派遣先は会員だけにするのかしないのか、など、はっきりすべき点があります。「講師.com」では、登録費用を取っています。一番楽な方法は、講師一覧だけ出して、マッチングはお好きにどうぞというやり方です。費用を取るとなると、事務局側に負担がかかります。また、紹介はしたけど当日体調不良になり、代替の講師をどうするかなどの責任のありか等、リスクは色々考えられます。

(細野会長)

有り難うございました。他にご意見はありますか。

(渡邊環境清流部会長)

分野も色々あります。またレベルもどのへんを狙うのかなどもありますが、私が経験したのは、環境省でやっている「環境カウンセラー」です。地域で市民団体を経験し、論文を書き、面接、試験をやって初めて資格を有します。「環境カウンセラー」になると、インターネットで経歴などが公開されます。毎年どんな活動を行ったか報告を行い、3年毎に更新を行います。報告がなければ、資格から外されます。また、東京都には「環境学習リーダー」養成講座があります。週1回の講義が1年半かけて行われ、受講が完了するとリーダーとなり、インターネットで公表されます。これらの制度では、依頼側と講師が直接交渉し、交通費や謝金を払い、東京都も環境省も関

知しないことになっています。

(細野会長)

有り難うございました。他にご意見はありますか。この人材バンクを新設することによって、何か狙えるのでしょうか。今でも事務局は手一杯の状態です。さらにこれを追加することになると、負担はさらに増えます。そんな中、この制度で何を狙っているのでしょうか。事務局、説明してください。

(事務局)

まず、この話の発端ですが、前回の部会で、山崎運営委員から人材バンクについて考えて欲しいと依頼がありました。何がメリットかという、山崎さんによれば、「フォーラムには指導できる立場の人が一杯いるのに、もったいない」ということです。そういう方たちに有機的に動いていただくことで、さらにフォーラムが活性化することです。我々事務局は、細野会長のおっしゃる通り、仕事がばんばんですので、きっちりとした人材バンク制度ははなからできないと思っています。紹介するひとつのルートだけでもつけてあげて、後は個別交渉でやっていただくぐらいが事務局の限界だと思います。いずれにせよ、運営委員からのご提案なので、まずは部会でお謀りし、生煮えで終わる場合はさしかけになりますし、急に機運が盛り上がり具体的なイメージが出てくれば、運営委員会にお謀りする必要が出てくると思います。まずはラフ案で皆さんのご意見を伺い、事務局では短期間で探り得ない問題点を伺い、実現可能なのか、そうでないのか、あたりをつけたくてご意見を頂戴しました。事務局で目標値を設定し、それにむけて議論してくれということではありません。

(堤様)

読み違えをしていました。依頼者と講師が直接交渉し、ビジネスは考えていないということであれば、フォーラムとしての一番大きなメリットとして、多摩川・環境・自然に興味はあるけどどうしたら良いだろう、子どもたちに正しい指導をしてくれる方がいるのだろうかという時に、こういう人材バンクをやっている市民団体があることを知っていただくことがきっかけで、個人や法人の会員獲得に繋がると思います。ハードルとして一番難しいのは、誰を人材バンクに載せるのかだと思います。例えば自然環境について、「赤だ」と主張する方と「黒だ」と主張する方の両方を載せるのか、先生は載せるけど学生は駄目だとか、プロは載せるけど素人は駄目だとか、講師のラインとして、基準を決めないといけないと思います。いつまで掲載して、どういう条件になったら排除するとか、取り決めをしたほうが良いと思います。

(細野会長)

そうですね。いくつか問題点があるようなので、少し考えましょう。しかし、こういう試みも必要かもしれませんし、どういう形で乗り越えていったら良いのか、少し考えることにしましょう。

(4) その他

(藤井様)

- 皆さんのお手元に、日経の新聞記事を両面刷りでお配りしました。これから夢のある話をしたいと思います。
- 表面に、「中央線にトロッコ列車」とあります。8月31日付の日経記事です。フォーラム発足当初は、「奥多摩に蒸気機関車を走らせよう」等のプランがありました。色々な問題があり、実現できませんでした。そんな中、JR東日本は11月、甲府駅ー小淵沢駅に中央線では初めてのトロッコ列車を走らせるそうです。では、フォーラムとして、立川駅ー奥多摩駅間で走らせたらどうでしょうか。今日はJR東日本さんも出席されていますので、ぜひ前向きに検討をお願いいたします。
- 続いて裏面をご覧ください。「山梨の新興・中小、多摩へ」とあります。9月21日の日経朝刊です。「多摩地区は衰退している、元気がない」という話は良く聞きますが、85万人を有する山梨県から見れば、400万人を有する多摩地区が魅力的に映るのです。また近い将来、圏央道が完成すれば、多摩を中心に、埼玉県と神奈川県が縦に繋がります。記事によれば、「運輸やサービス業を中心に、多摩地域で設備を強化したり、営業拠点を新設したりする動きが目立つ。」とあります。近県から見れば、多摩地区はまだ魅力的な地域だということです。やり方によっては、大きな経済圏として発達するのではないかと思います。

(細野会長)

お時間が迫ってきましたが、他に何かございますか。

(川杉様)

「銀座かずや」の川杉と申します。7年前に青梅に移住し、「銀座かずや」の青梅事務所を開設しました。「銀座かずや」は1坪の小さい店で、弟と2人で経営しています。我々姉弟は青梅が大好きで、ここ数年間、我々が地域に貢献できることは何なのかを考えてきました。そのプランをお話します。我々の店は、本当に良いものを価値の分かるお客様に販売したいという信念でやっております。ブランド・カテゴリで言えば、少し高い位置にあり、海外ですとアラブの王様や、JALのVIP顧客、台

湾や香港からも予約が入り、1ヵ月前に予約完売となります。昨年から、多摩の物産を使って良いものを作れないか、商品開発をしてきました。わさびや梅を使ってみましたが、「また食べたい」と思うのは柚子でした。「多摩柚子最中」と「多摩柚子わらび」という商品を作りました。この商品のパッケージに、多摩の良いところ、多摩川・奥多摩・御岳山・高尾山・秋川溪谷などを広告塔として書き、裏面に「銀座かずや」のホームページアドレスを載せます。そのアドレスにアクセスしたお客様は、多国言語で魅力的な多摩が掲載されたサイトをご覧になります。特に海外の人たちは自然を大切にするので、多摩の魅力を発信できるのではと思っています。新参者ですので、多摩の良いところを皆さんに教えていただき、サイトに反映させていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

(細野会長)

有り難うございました。まだまだお話したいですが、お時間ですので、何かありましたら事務局へご連絡ください。今日は様々なお話がありましたが、奥多摩郷土弁当についてはトロッコ列車で販売するというのもあっても良いかもしれません。

(藤井様)

トロッコ列車は、立川～奥多摩間で走らせてほしかったです。

(酒井様)

私も最初は小淵沢ではなくて青梅線で走らせたほうが良いと思い、社内で議論しました。何故青梅線で実現しなかったかと申しますと、トロッコ列車は前後を電気機関車で引っ張ります。JR東日本の運転士は、どの線路でも運転できるという訳ではありません。残念ながら、青梅・五日市線の運転士で、機関車を運転できる者がおられません。運転士の養成からスタートしなければならぬため、断念せざるを得ませんでした。トロッコ列車に限らず、「何か楽しい列車を」というのであれば、検討可能だと思います。

(細野会長)

有り難うございました。まだ色々と課題があるかもしれませんが、夢を捨てないようにしたいと思います。それでは、野村顧問からお話をいただいお開きにしたいと思います。

5. 総括・閉会（顧問、部会長）

(野村顧問)

今日は、皆さんから貴重なご意見を拝聴し、有り難うございました。先ほど申し上

げました通り、東京都は、「2020年の東京（仮称）」都市ビジョンを出しておりますが、多摩については2030年を目標に新たな多摩のビジョンを年内に作成しようとしています。そういった中、民間の皆さんのご意見をいただき、今後20年間の都政に反映させていただきたいと思います。先ほど「多摩地区は400万人の人口で、将来悲観的な見方が多い中、夢を持たなければならない」というご指摘がありました。現実では2015年をピークに人口が減少してきますし、少子高齢化も進みます。税収も減り、大企業が多摩から撤退し、産業の空洞化が起きます。日野では、日野自動車と東芝が、青梅では東芝と日立が撤退します。また戦後、東京都あるいは国が一貫して整備してきた橋等のインフラも老朽化し、公共投資にもお金がかかります。非常にネガティブな見方で恐縮ですが、将来の動向を見極め、成長・拡大の方針から、成熟・持続の視点に変え、今後の多摩のビジョンを講じていきたいと思います。ぜひ夢のある将来の多摩づくりに関し、皆さんのご提言をいただきたいと思います。来年は多摩国体が開催され、多摩を中心に全国からお客様がお見えになります。そこで美しい多摩川フォーラムの考えを全国の皆さんにお聞きいただける場面ができれば良いと思います。今日は有り難うございました。

(細野会長)

平成24年度第2回地域経済活性化部会を終了したいと思います。ただいま顧問からお話がありましたように、このフォーラムは官民連携ですので、現実を踏まえながら前進していくのが使命です。ぜひ皆さんのお力をお借りしたいと思います。今日はこれで終わります。有り難うございました。

以 上